

平成30年8月7日

上場会社名 デンカ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4061 URL http://www.denka.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)山本 学  
 問合せ先責任者 (役職名)IR室長 (氏名)大町 徹夫 (TEL)03(5290)5532  
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	93,969	3.7	6,931	7.8	8,008	8.4	6,228	3.1
30年3月期第1四半期	90,588	10.5	6,430	49.7	7,389	212.5	6,043	170.7

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 4,926百万円(△6.7%) 30年3月期第1四半期 5,281百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	71.07	—
30年3月期第1四半期	68.29	—

※当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第1四半期	473,371	243,508	50.6	2,735.57
30年3月期	473,799	242,780	50.5	2,727.94

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 239,729百万円 30年3月期 239,063百万円

※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、平成30年3月期の連結財政状態については、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	10.00	—	55.00	—
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	60.00	—	60.00	120.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

※当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。平成30年3月期第2四半期末の1株当たり配当金については、当該株式併合前の金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。株式併合を考慮した場合の平成30年3月期第2四半期末の1株当たり配当金は50.00円となり、1株当たり年間配当金は105.00円となります。

## 3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	195,000	3.8	14,000	△2.2	13,000	△15.9	10,000	△18.5	114.11
通期	410,000	3.6	36,000	7.0	34,000	7.9	25,000	8.5	285.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

31年3月期1Q	88,555,840株	30年3月期	88,555,840株
31年3月期1Q	921,645株	30年3月期	920,625株
31年3月期1Q	87,634,514株	30年3月期1Q	88,490,272株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※期末自己株式数及び期中平均株式数には、株式給付信託が保有する当社株式を含めています。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(追加情報)	9
3. 補足情報	10
平成31年3月期 第1四半期決算概要	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、個人消費の持ち直しや、設備投資や生産も上向くなど、景気は緩やかに回復しました。世界経済は、米国景気が堅調に推移するなど、全体として緩やかな回復基調が続きました。

このような経済環境のもと、当社グループは、国内外での拡販やコストの削減に努め、業容の拡大と収益の確保に注力いたしました。この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、原材料価格の上昇に応じた販売価格の改定や、電子・先端プロダクツ製品を中心に販売数量が増加したことなどにより、売上高は939億69百万円と前年同期に比べ33億81百万円(3.7%)の増収となり、第1四半期連結累計期間として過去最高となりました。収益面では、ヘルスケア分野などで将来に向けた先行投資による費用負担が増加しましたが、交易条件の改善が寄与し、営業利益は69億31百万円(前年同期比5億1百万円増、7.8%増益)となりました。そして、経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益はそれぞれ第1四半期連結累計期間の過去最高益を更新し、経常利益が80億8百万円(前年同期比6億18百万円増、8.4%増益)、親会社株主に帰属する四半期純利益が62億28百万円(前年同期比1億84百万円増、3.1%増益)となりました。

なお、平成30年4月1日付で、高純度導電性カーボンブラック「デンカブラック」の担当部門を、従来の「エラストマー・機能樹脂部門」から「電子・先端プロダクツ部門」に変更しており、当第1四半期連結累計期間の比較・分析は変更後の区分によって行っております。

#### <エラストマー・機能樹脂部門>

当部門の売上高は425億50百万円と前年同期に比べ18億90百万円(4.6%)の増収となりました。

クロロプレナムは米国の子会社デンカパフォーマンスエラストマー社が寒波の影響により減産となるなど販売数量は減少しましたが、販売価格の改定により増収となりました。また、ABS樹脂やデンカシンガポール社のポリスチレン樹脂、MS樹脂の販売も好調に推移しました。

#### <インフラ・ソーシャルソリューション部門>

当部門の売上高は121億61百万円と前年同期に比べ1億91百万円(1.6%)の減収となりました。

農業・土木用途向けのコルゲート管や耐火物・鉄鋼用材料は販売数量が増加し増収となり、セメントや特殊混和材の販売も堅調に推移しましたが、肥料の販売は前年を下回りました。

#### <電子・先端プロダクツ部門>

当部門の売上高は155億61百万円と前年同期に比べ8億24百万円(5.6%)の増収となりました。

電子回路基板、高信頼性放熱プレート“アルシク”および高純度導電性カーボンブラックは販売数量が増加し増収となり、電子部品・半導体搬送用部材の機能フィルムや半導体封止材向け球状溶融シリカフィルター、球状アルミナの販売も好調に推移しましたが、LED用サイアロン蛍光体“アロンブライツ”の販売は前年を下回りました。

#### <生活・環境プロダクツ部門>

当部門の売上高は97億20百万円と前年同期に比べ5億39百万円(5.3%)の減収となりました。

工業用テープは販売数量が増加し増収となり、食品包材用シートやデンカポリマー株式会社の加工品の販売も堅調に推移しました。また、合繊かつら用原糸“トヨカロン”の販売は概ね前年同期並となりましたが、耐候性フッ素系アロイフィルム“DXフィルム”は前年を下回りました。

#### <ライフソリューション部門>

当部門の売上高は47億76百万円と前年同期に比べ1億49百万円(3.2%)の増収となりました。

デンカ生研株式会社の試薬の販売は国内、輸出とも前年を上回りました。

#### <その他部門>

当部門の売上高は91億98百万円と前年同期に比べ12億48百万円(15.7%)の増収となりました。

株式会社アクロス商事等の商社は取扱量が前年を上回りました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ4億28百万円減少の4,733億71百万円となりました。流動資産は、棚卸資産の増加などにより前連結会計年度末に比べ9億91百万円増加の1,851億20百万円となりました。固定資産は、有形固定資産の減価償却などにより前連結会計年度末に比べ14億20百万円減少の2,882億50百万円となりました。

負債は、未払法人税等の減少などにより前連結会計年度末に比べ11億56百万円減少の2,298億62百万円となりました。

非支配株主持分を含めた純資産は前連結会計年度末に比べ7億27百万円増加して2,435億8百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の50.5%から50.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間の連結業績予想および通期の連結業績予想につきましては、平成30年5月10日に公表した予想数値から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,115	15,331
受取手形及び売掛金	95,583	88,996
商品及び製品	43,761	47,606
仕掛品	3,669	5,395
原材料及び貯蔵品	18,870	19,052
その他	8,595	9,208
貸倒引当金	△466	△470
流動資産合計	184,129	185,120
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	61,536	60,403
機械装置及び運搬具（純額）	67,435	64,495
工具、器具及び備品（純額）	3,249	3,235
土地	63,323	63,323
リース資産（純額）	248	271
建設仮勘定	13,968	16,637
有形固定資産合計	209,761	208,366
無形固定資産		
のれん	9,315	8,857
特許権	364	326
ソフトウェア	1,148	1,063
その他	3,053	2,888
無形固定資産合計	13,880	13,136
投資その他の資産		
投資有価証券	58,178	59,042
長期貸付金	552	549
繰延税金資産	2,534	2,656
その他	4,901	4,639
貸倒引当金	△139	△139
投資その他の資産合計	66,027	66,747
固定資産合計	289,670	288,250
資産合計	473,799	473,371

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	53,625	52,584
短期借入金	41,100	41,478
コマーシャル・ペーパー	—	4,000
1年内返済予定の長期借入金	634	603
1年内償還予定の社債	15,000	—
未払法人税等	5,855	2,059
未払消費税等	1,081	588
賞与引当金	3,002	5,460
その他	37,745	34,337
流動負債合計	158,043	141,112
固定負債		
社債	12,000	27,000
長期借入金	39,535	39,998
繰延税金負債	5,318	5,269
再評価に係る繰延税金負債	8,403	8,403
退職給付に係る負債	6,002	6,322
株式給付引当金	18	25
その他	1,696	1,730
固定負債合計	72,975	88,749
負債合計	231,019	229,862
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	36,998	36,998
資本剰余金	49,391	49,348
利益剰余金	129,278	131,185
自己株式	△3,189	△3,193
株主資本合計	212,479	214,338
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,448	18,637
繰延ヘッジ損益	△195	△205
土地再評価差額金	10,260	10,260
為替換算調整勘定	1,241	△1,234
退職給付に係る調整累計額	△2,170	△2,066
その他の包括利益累計額合計	26,584	25,391
非支配株主持分	3,717	3,779
純資産合計	242,780	243,508
負債純資産合計	473,799	473,371

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	90,588	93,969
売上原価	68,347	70,393
売上総利益	22,240	23,575
販売費及び一般管理費	15,810	16,644
営業利益	6,430	6,931
営業外収益		
受取利息	13	18
受取配当金	924	1,645
持分法による投資利益	651	128
為替差益	203	465
その他	64	85
営業外収益合計	1,857	2,343
営業外費用		
支払利息	180	171
操業休止等経費	263	366
その他	453	729
営業外費用合計	897	1,266
経常利益	7,389	8,008
特別損失		
災害による損失	—	117
特別損失合計	—	117
税金等調整前四半期純利益	7,389	7,890
法人税等	1,560	1,626
四半期純利益	5,829	6,264
非支配株主に帰属する四半期純利益	△213	36
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,043	6,228



## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	5,829	6,264
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	716	1,136
為替換算調整勘定	△1,390	△2,566
退職給付に係る調整額	118	103
持分法適用会社に対する持分相当額	7	△10
その他の包括利益合計	△547	△1,337
四半期包括利益	5,281	4,926
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,522	5,035
非支配株主に係る四半期包括利益	△241	△108

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	エラス トマ ー・機 能樹脂	インフ ラ・ソ ーシャ ルソリ ューシ ョン	電子・ 先端プ ロダク ツ	生活・ 環境プ ロダク ツ	ライフ イノベ ーショ ン	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	40,660	12,353	14,737	10,260	4,626	82,637	7,950	90,588	—	90,588 (注) 4
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	28	0	—	—	—	28	1,257	1,285	(1,285)	—
計	42,688	12,353	14,737	10,260	4,626	82,666	9,207	91,873	(1,285)	90,588
セグメント利益 又は損失(△)	2,787	310	2,789	401	△22	6,266	148	6,415	15	6,430

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラントエンジニアリング事業、商社事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額15百万円は、セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. このうち、海外売上高は40,056百万円(44.2%)であります。

なお、海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

## 2. 地域ごとの売上高に関する情報

(単位：百万円)

	日本	海外			合計
		アジア	その他	計	
売上高	50,531	26,084	13,972	40,056	90,588
連結売上高に占める割合(%)	55.8	28.8	15.4	44.2	100.0

(注) 売上高は顧客の所在地を基盤とし、国又は地域に分類しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 事業 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	エラストマ ー・機 能樹脂	インフ ラ・ソ ーシャ ルソリ ューシ ョン	電子・ 先端プ ロダク ツ	生活・ 環境プ ロダク ツ	ライフ イノー ベーシ ョン	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	42,550	12,161	15,561	9,720	4,776	84,770	9,198	93,969	—	93,969 (注)4
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	0	0	—	—	—	0	1,652	1,652	△1,652	—
計	42,550	12,161	15,561	9,720	4,776	84,770	10,851	95,622	△1,652	93,969
セグメント利益 又は損失(△)	4,385	△221	2,669	62	△200	6,695	285	6,980	△49	6,931

- (注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラントエンジニアリング事業、商社事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△49百万円は、セグメント間取引消去によるものです。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. このうち、海外売上高は41,954百万円(44.6%)であります。  
なお、海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

2. 地域ごとの売上高に関する情報

(単位：百万円)

	日本	海外			合計
		アジア	その他	計	
売上高	52,014	27,324	14,630	41,954	93,969
連結売上高に占める割合(%)	55.4	29.1	15.6	44.6	100.0

(注) 売上高は顧客の所在地を基盤とし、国又は地域に分類しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、高純度導電性カーボンブラック「デンカブラック」の報告セグメントを、従来の「エラストマー・機能樹脂」から「電子・先端プロダクツ」へ変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

## 3. 補足情報

## 2018年度 第1四半期決算概要

2018年8月7日  
デンカ株式会社

## 1. 業績の概要

## 【総括(前年同期比)】

- ・当期第1四半期は、ヘルスケア分野などで将来に向けた先行投資による費用負担が増加しましたが、原材料価格の上昇に応じた販売価格の改定により交易条件が改善したことや、電子・先端プロダクツ製品を中心に販売数量が増加したことなどにより、営業利益は前年に比べ5億円増益の69億円(前年比7.8%増)となりました。そして、経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益は、第1四半期連結累計期間の過去最高益を更新し、経常利益は80億円(前年比8.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は62億円(前年比3.1%増)となりました。
- ・第2四半期以降も、電子・先端製品の好調な出荷が継続する見通しであり、スチレンモノマープラントの定修負担があるものの、上期は営業利益140億円、下期はインフルエンザワクチンや診断キットの収益寄与により同220億円と、通期予想営業利益360億円達成により、2期連続最高益更新を目指します。

## 【セグメント別状況(前年同期比)】

- ・クロプレングムは、米国子会社デンカパフォーマンスエラストマー社が寒波の影響で減産になるなど販売数量は減少したものの、販売価格の改定が進み、また、ABS樹脂やデンカシンガポール社のポリスチレン樹脂、MS樹脂の販売も好調に推移したことなどから、増益となりました。第2四半期は、スチレンモノマープラントの定修影響などから、営業利益は減少する見通しです。
- ・インフラ・ソーシャルソリューションは、農業・土木用途向けのコルゲート管や耐火物鉄鋼用材料の販売数量が増加、セメントや特殊混和材の販売も堅調に推移しましたが、肥料の販売は前年を下回り、また原燃料価格の上昇もあり、減益となりました。第2四半期以降は、特殊混和材などの堅調な販売が続くとともに、価格は正を進めることで増益を見込みます。
- ・電子・先端プロダクツ部門は、電子回路基板、高信頼性放熱プレート“アルシンク”および高純度導電性カーボンブラックの販売数量が増加し、電子部品・半導体搬送用部材の機能フィルムや半導体封止材向け球状溶融シリカファイバー、球状アルミナの販売も好調に推移しましたが、LED用サイアロン蛍光体“アロンブライト”の販売は前年を下回り、また増産体制に伴う労務費他固定費増加で利益は前年並みとなりました。第2四半期以降は、球状アルミナその他の伸長により、増益の見通しです。
- ・生活環境プロダクツ部門は、工業用テープの販売数量が増加し、食品包材用シートやデンカポリマー株式会社の加工品の販売も堅調に推移しました。また、合繊かつら用原糸“トヨカロン”の販売は概ね前年同期並となりましたが、耐候性フッ素系アロイフィルム“DXフィルム”の出荷が前年を下回ったことに加えて、原材料価格の上昇などもあり、減益となりました。第2四半期も、同フィルムの販売減少の影響などから、前年比減益となる見通しです。
- ・ライフイノベーション部門は、デンカ生研株式会社の試薬の販売は国内、輸出とも前年を上回りましたが、研究費等先行投資の負担増により減益となりました。第2四半期以降は、インフルエンザワクチンや診断キットの収益寄与があることから、期初予想通りの利益となる見通しです。

## 【業績】

(単位:億円)

	2018年度 第1四半期実績 (4-6月)	2017年度 第1四半期実績 (4-6月)	増 減
売上高	940	906	34
営業利益	69	64	5
経常利益	80	74	6
親会社株主に帰属する当期純利益	62	60	2

2018年度 第2四半期予想 (4-9月)	2018年度 通期予想 (4-3月)
1,950	4,100
140	360
130	340
100	250

## 2. セグメント別 連結売上高・営業利益

(単位:億円)

	2018年度 第1四半期実績	2017年度 第1四半期実績	増 減
エラストマー・機能樹脂	426	407	19
	営業利益	28	16
インフラ・ソーシャルソリューション	122	124	△ 2
	営業利益	3	△ 5
電子・先端プロダクツ	156	147	8
	営業利益	28	△ 1
生活・環境プロダクツ	97	103	△ 5
	営業利益	4	△ 3
ライフイノベーション	48	46	1
	営業利益	△ 0	△ 2
その他	92	80	12
消去差	2	2	1
合計	940	906	34
	営業利益	64	5

2018年度 第2四半期予想	2018年度 通期予想
885	1,785
60	130
275	555
10	20
335	685
55	125
205	415
5	15
120	345
5	60
130	315
5	10
1,950	4,100
140	360

## 3. 参考数値・前提

(単位:億円)

		2018年度 第1四半期実績	2017年度 第1四半期実績	増 減	2018年度 第2四半期予想	2018年度 通期予想
投 資	設備投資	56	47	9	150	310
	M & A 他	1	0	1	未定	未定
	計	57	47	10	150	310
減価償却費		57	61	△ 4	115	235
研究開発費		39	34	5	75	150
有利子負債残高		1,131	1,149	△ 18	1,120	1,080

  

	2018年度 第1四半期実績	2017年度 第1四半期実績
為替レート [円/\$]	108.1	111.8
国産ナフサ [円/kl]	49,000	39,700

## 4. セグメント別 連結売上高増減内訳

(単位:億円)

	売 上 高				
	2018年度 第1四半期実績	2017年度 第1四半期実績	増 減	販売価格差	数量差
エラストマー・機能樹脂	426	407	19	35	△ 16
インフラ・ソーシャルソリューション	122	124	△ 2	2	△ 4
電子・先端プロダクツ	156	147	8	△ 3	11
生活・環境プロダクツ	97	103	△ 5	△ 1	△ 4
ライフイノベーション	48	46	1	△ 2	3
そ の 他	92	80	12	-	12
合 計	940	906	34	32	2

## 5. セグメント別 連結営業利益増減内訳

(単位:億円)

	営 業 利 益					
	2018年度 第1四半期実績	2017年度 第1四半期実績	増 減	販売価格差	数量差	コスト差等
エラストマー・機能樹脂	44	28	16	35	△ 5	△ 14
インフラ・ソーシャルソリューション	△ 2	3	△ 5	2	△ 1	△ 6
電子・先端プロダクツ	27	28	△ 1	△ 3	5	△ 3
生活・環境プロダクツ	1	4	△ 3	△ 1	△ 1	△ 1
ライフイノベーション	△ 2	△ 0	△ 2	△ 2	2	△ 2
その他、消去差	2	2	1	-	△ 0	1
合 計	69	64	5	32	△ 0	△ 26